ブックショートアワード　８月期
応募作品

◇作品タイトル

『　青春っぽい　』

◇著者名

長瀬貴弘

◇あらすじ（１４０字以内）

キラキラした青春に憧れる女子中学生のコニシは友人のタチバナと海に向かって叫んだり、青春っぽいことを試しているがしっくりこない。そんな時、クラスメイトの男子・木村が仲間にいれてほしいと言ってくる。次第にコニシは木村のことを好きになるが、木村が好きなのはタチバナだった。

◇本編文字数

５７１３文字
ペラ換算42枚

◇登場人物

・コニシ（女・14歳）
中学二年生。ショートヘア。
ガサツだが夢見がちな性格で、青春モノの映画やアニメの影響で青春っぽいものに憧れている。

・タチバナ（女・14歳）
中学二年生。ロングヘア。
コニシの友達。美人だが無愛想ですぐに

手が出る。青春に興味はないが付き合いはいい。

・木村（男・14歳）
コニシとタチバナのクラスメイト。

・コニシの妹（女・10歳）

・先生（男・40～歳）

他

○浜辺（朝）

穏やかな海。朝日が水面に反射してとても美しい。

浜辺に佇んでいるのは制服姿のコニシ。

コニシ「（海を見ていて）……」

その表情は憂いを帯びながらも、強い衝動を抑え込んでいるかのよう。

コニシの後方ではタチバナが体育座りをして、ただ見ている。

ザザーという波の音だけが響いている。

すると、コニシが大きく息を吸い込んで、

コニシ「バカヤローーーッ！」

海に向かって叫んだ！

コニシ「バカヤロー！　バカヤロー！　バッカヤローーーッ！」

タチバナは興味なさそうにスマホを弄っている。

コニシ「海の……バカヤローーーッ！！」

コニシ、息が荒くて、

コニシ「はぁ、はぁ、はぁ……（フラットな表情に変わって）なーんか違うんだよなぁ」

コニシ、タチバナに向かって、

コニシ「タチバナも一緒に叫ぼうぜ」

タチバナ「バカみたいだから嫌」

おもむろに立ち上がるタチバナ、踵を返して、さっさと歩いていってしまう。

コニシはそれを追って、

コニシ「青春ってムジィなー」

○通学路（午前）

コニシとタチバナが自転車に二人乗りしている。

コニシが漕いでいて、タチバナは荷台に座っている。

タチバナ「コニシ」
コニシ「あん？」
タチバナ「なんで海に叫ぶと青春なの？」
コニシ「そういうモンだからだよ」
タチバナ「なんでバカヤロー？」
コニシ「さぁ？　皆、言ってるし」
タチバナ「皆って誰」
コニシ「映画とかー、アニメとか」
タチバナ「やっぱりバカみたい」
　コニシ、振り向いて、
コニシ「今も青春っぽいはず」
タチバナ「だから自転車置いてこいって言ったんだ」
コニシ「そゆこと」
タチバナ「青春っぽい？」
コニシ「うーん……微妙！」
　上り坂に差し掛かると、コニシが立ち漕ぎを始める。
コニシ「（重くて）うぎぎ……」
　重さでなかなか進まない自転車。
　タチバナは座ったまま平然としている。
コニシ「ってか降りるだろ普通！」

○学校・外観（午前）
○同・教室・内

　コニシ、ぐでーっと机に突っ伏していて、
コニシ「足痛ってぇ……」
　後ろの席のタチバナ、スマホを見ている。
コニシ「重いんだよお前」
　タチバナ、ノールックでコニシの椅子を蹴った。
コニシ「（衝撃で）ぐえっ」
木村（ＯＦＦ）「今朝もしてきたの？　青春っぽいこと」

コニシに声をかけてきたのはクラスメイトの男子・木村。
コニシ「タチバナと二人乗りしてきた」
木村「えっ、危なくない？」
コニシ「海にも叫んだよ。バカヤローって」
木村「ああ、定番だよね」
コニシ「でも、なーんか微妙でさー」
木村、ずっと黙っているタチバナをちらりと見やって、
木村「タチバナさんはどう？　青春っぽかった？」
タチバナ、無視してスマホを弄っている。
木村「（苦笑して）あはは……」
肩をすくめるコニシ。

○屋上に続く階段（午後）

弁当を手に階段を上がるコニシとタチバナ。
屋上に繋がる扉までやってきた。
コニシ、おもむろにポケットから鍵を取り出した。
タチバナ「どうしたのそれ」
コニシ「職員室からパクってきた」
鍵をあけるコニシ、扉が開くと踊り場に眩い光が差し込んだ。
タチバナ「（眩しくて目を細める）……」
すると、コニシが屋上に飛び出した！

○屋上

飛ぶように屋上を駆けていくコニシ。
コニシ「わーーーーーっ！！」
一生懸命な感じで走って、走って、空に向かって叫ぶ。
コニシ「わーーーっ！　わあーーーっ！」

屋上に入ってくるタチバナ、無感動な様子でそれを見て、
タチバナ「青春っぽい？」
走るのをやめて、くるっと振り返るコニシ。
コニシ「あんまし！」
×　×　×
――時間経過。
並んで弁当を食べている二人。
コニシ「お前さあ、あの態度はないぜ」
タチバナ「何が？」
コニシ「木村のことガン無視したじゃん」
タチバナ「そうだっけ」
コニシ「そんなんだから、あたし以外友達いないんだぞ」
タチバナ「いいよ別に。コニシだけで」
コニシ、唇をすぼめながらタチバナに抱きつこうとする。
コニシ「チューしてやろう。ほら、チュー」
タチバナ、コニシの腹に水平チョップ。
コニシ「ぐおっ!?」
タチバナ「やめて」
悶えるコニシ。
コニシ「おま……すぐ手出すのやめろってい つも言ってんだろ……」
タチバナ「やめてって言った」
コニシ「言う前に殴ったじゃん……」
タチバナ「なんで青春なの？」
コニシ「（まだ痛くて）あ？」
タチバナ「なんで青春がしたいの？」
コニシ「テレビで『耳をすませば』やってて さあ」
タチバナ「見てない」
コニシ「見ろよ。天沢聖司最高だから」

タチバナ「そもそも青春って何？」
コニシ「……わかんね」
　コニシは目をきらきらと輝かせて、
コニシ「わかんねーけど、青春はきっといいものなんだよ。キラキラしてて、ピカピカしてて」
タチバナ「（ふーんと見てて）……」

○教室（放課後）

　帰り支度をしたコニシとタチバナ、教室から出ようと、
木村「あ、あの！」
コニシ「（気づいて）？」
　木村は緊張していて、
木村「よければなんだけど……ぼ、僕も混ぜてくれないかな。青春のやつ」
　タチバナの目つきが鋭くなる。
タチバナ「……」
木村「前から興味あったんだよね」
　コニシ、木村をしげしげと見て、
コニシ「お前、バイオリン弾ける？」
木村「（きょとん）え？」

○高台（夕）

　コニシと木村が夕日に向かって叫んでいる。
　タチバナは後ろでスマホを弄っている。

○通学路（日替わり・午前）

　自転車を二人乗りするコニシと木村、木村が漕いで、コニシが荷台。
　タチバナは一人で自転車に乗っている。

○コンビニ（日替わり・午後）

コンビニの前でたむろするコニシたち。
木村がタチバナに棒アイスを差し出すが、横からコニシが食べた。

○浜辺（日替わり・午前）

三脚につけられたスマホを弄るコニシ、カメラの操作を終えてダッシュ。
離れた所で待機していたタチバナと木村に合流、同時にジャンプ！
撮れた写真は微妙にジャンプのタイミングが合っておらず、不格好。

○浜辺（日替わり・夜）

花火をしている三人。
コニシが吹き出す花火を持って、木村を追いかけ回している。
タチバナは一人で線香花火をしている。

○木村の部屋（日替わり・午後）

木村がおっかなびっくりバイオリンを弾いている。
それを見て爆笑しているコニシ、ただ見ているタチバナ。

○帰り道（夕）

帰路につくコニシとタチバナ。
コニシ「くくっ、マジでバイオリン練習してくるとは思わなかったわ」
　ようやく笑い終えるコニシ。
コニシ「はー、面白」
タチバナ「あの人、いつまでいるの？」
コニシ「え？　木村のこと嫌い？」
タチバナ「嫌いとかじゃないけど」
コニシ「ならいーじゃん」

タチバナ「付きまとってくる意味がわからない」
コニシ「（照れて）それは……あ、あたしのことがさ……好きなんじゃね？」
タチバナ「は？」
コニシ「たぶんだけどな！　たぶん！」
　照れを隠すように小走りするコニシ、くるりと振り返って、
コニシ「（笑って）こういうのも青春っぽいよな」
タチバナ「……」

○コニシの部屋（夜）

　ベッドで寝そべるコニシ。
　と、スマホに通知がくる。
　見ると木村から『明日の放課後、話したいことがあるんだ』というメッセージ。
コニシ「（ニマー）ついにきたか～～～」
　足をバタつかせて暴れる。
コニシの妹「お姉ちゃんうるさーい」

○学校・校舎裏（日替わり・放課後）

　頬を赤らめて話す木村。
木村「タチバナさんのことが好きなんだ」
　開いた口が塞がらないコニシ。
木村（ＯＦＦ）「前から話しかけてはいたんだけどあまり上手くいかなくて……一緒に過ごす時間が増えれば何か変わるかなって思ったんだけど、難しいね。コニシさんなら、タチバナさんと仲良くなる方法を知ってるんじゃないかって……あの、聞いてる？　コニシさん？　コニシさーん」

○通学路（夕）

とぼとぼと一人、歩いているタチバナ。
通りがかったのは、前にコニシが叫んでいた砂浜。
誰もいない砂浜を見ているタチバナ。

○コニシの部屋（夜）

テレビを見ているコニシ。
流れているのは『耳をすませば』。
コニシ「（冷めた表情で見ていて）……」
傍らのスマホがバイブする。
コニシ、見るとタチバナから『黙って先帰んな』『明日はやるの？』『青春っぽいこと』というメッセージが。
コニシ「（深いため息）はーーー……」
そのままこてんと寝転がってしまう。

○同・教室

先生、名簿を見ながら、
先生「コニシー。コニシはー……（見て）」
コニシの席は空だ。
先生（ＯＦＦ）「欠席と……これで三日連続かー。先生心配だなー」
タチバナ、こっそりスマホを取り出してアプリのトーク画面を開く。
コニシに『なんで休んでるの』『ほんとに風邪？』『シカトすんな』『殺すぞ』と連投しているが既読スルーされている。
追撃の文章を打ち込むタチバナ。

○コニシの部屋

ベッドでふて寝しているコニシ、スマホを見ている。
タチバナから『青春するんじゃないの？』というメッセージ。

コニシ「……」
コニシ、のろのろと返事を打つ。

○学校・教室

返信がきた。
『青春ごっこはもうやめる』。
見た瞬間、タチバナの瞳孔が開く。
ふらりと席を立つタチバナ。
先生「（気づいて）？　タチバナー？　先生まだ呼んでないぞー？」
無視してずんずん歩いていくタチバナ、木村の席の前に立った。
タチバナ「お前、コニシに何言った？」
木村「え？」
タチバナ「コニシに何言った！！！」
タチバナ、猛獣のような勢いで木村に掴みかかる！
吹っ飛ぶ机に椅子、タチバナが木村をもみくちゃにしていく。
騒然とする教室。
慌てた先生が制止しようとするが、タチバナは止まらない！
怒りに身を任せて、大暴れ！

○コニシの家・コニシの部屋（夜）

ミノムシのように布団に包まっているコニシ、妹に愚痴をこぼしていて、
コニシの妹「ふーん、だから学校お休みしてるんだ」
コニシ「……（頷く）」
コニシの妹「好きだったんだね。その人のこと」
コニシ「（もごもごと）別に好きとかじゃ……ちょっとアリかなーと思っただけで……」

コニシの妹「ほんと〜？」
布団に潜っていくコニシ。
コニシ「あー、マジ最悪……ダサすぎ……」
コニシの妹、ビシッと指さして、
コニシの妹「青春っぽい！」

○タチバナの部屋（未明）
真っ暗な部屋。
ところどころ怪我をしていて、絆創膏などをつけているタチバナがスマホで動画を見ている。
それは『耳をすませば』。
タチバナがちらりと窓の外を見ると、空はもう白みはじめている。
スクっと立ち上がるタチバナ。

○街・全景（早朝）

○コニシの部屋
スマホのバイブ音。
寝ていたコニシが目を覚ました。
スマホを見てみると、タチバナから『外』というメッセージが来ている。
コニシ「（わからず）……？」
コニシ、立ち上がって窓を開けてみる。
下を見ると、自転車に乗ったタチバナがいた！
コニシ「え？　は!?」
『降りてこい』と顎でしゃくるタチバナ。

○コニシの家・前
家を飛び出したコニシ、タチバナに駆け寄って、
コニシ「おまっ……何やってんの！」
タチバナ「迎えに来た」

コニシ「はあ!?」
　コニシ、自転車の荷台を指して、
タチバナ「乗って」
コニシ「乗れって……（怪我に気づいて）お前、その怪我……」
タチバナ「早くして。時間ないから」
コニシ「（ヤケで）ああもう！」
　コニシ、荷台に飛び乗った。

○海沿いの道（早朝）
　二人乗りで走る自転車。
コニシ「どこ行くんだよ！」
タチバナ「木村から全部聞いた」
コニシ「っ……そうかよ」
タチバナ「バカじゃないの」
コニシ「……どうせバカだよ」
タチバナ「……ムカつく」

○住宅街（朝）
　到着した二人。
　見上げるのは木村の家。
コニシ「木村の家じゃん」
タチバナ「見てて」
　タチバナ、大きく息を吸い込んで、
タチバナ「バカヤローーーッ！」
　木村の家に向かって叫んだ！
コニシ「（驚いて）ちょっ、おま――」
タチバナ「バカヤローーーッ！」
コニシ「近所迷惑だって！」
　タチバナ、溜め込んでいた感情を爆発させるように、
タチバナ「バカヤロー！　バカヤロー！　バッカヤローーーッ！」
　その必死な姿に見入ってしまうコニシ。

タチバナ、息が荒くて、
タチバナ「はぁ、はぁ、はぁ……」
コニシ（ＯＦＦ）「バカヤローーーッ！」
タチバナ「（ハッと見て）！」
木村の家に向かって叫ぶコニシ！
コニシ「バカヤロー！　バカヤロー！」
フッと微笑むタチバナ、再び大きく息を吸い込んで、
コニシ・タチバナ「バカヤローーーッ！」
互いに負けじと叫ぶコニシとタチバナ。
コニシ・タチバナ「バカヤローッ！　バカヤローッ！　バカヤローーーーーーッッッ！」
叫びが住宅街に響き渡る。
コニシ・タチバナ「はぁ、はぁ、はぁ……」
ちらっと目を合わせる二人、くすりと笑い合う。
すると、騒ぎを聞きつけた住民たちがぞろぞろと現れて、
住民①「何だ今の……」
住民②「いたずら？」
住民③「警察呼びましょうよ」
コニシ「やべっ、逃げるぞ！」
タチバナ「（頷く）」

○通学路（朝）

二人乗りの自転車が走っている。
タチバナが漕いでいて、コニシは荷台に座っている。
どちらからでもなく吹き出して、
コニシ・タチバナ「ぷっ……はははははっ！」
コニシ「さっきのさぁ！」
タチバナ「うん」
コニシ「キラキラしてないし、ピカピカしてなかったけど！」

タチバナ「うん」
コニシ「めっちゃ青春っぽかった！」
タチバナ「うん！」
　坂を下る自転車。
タチバナ「そういえば『耳をすませば』見た」
コニシ「マジ？　どうだった？」
タチバナ「あんた男の趣味悪いよ」
コニシ「はあ！？　天沢聖司最高だろ！」
　小さくなっていく二人にタイトルが被って――。

○タイトル　『青春っぽい』

（了）